



念じられ 照らされて

報恩講で出遇った言葉

不破 英明

今から二十年ほど前のおばあさんの話です。報恩講のおとぎの後片付けが終わり、日が傾く頃その方に境内でお会いしました。八十歳を過ぎ、少し背中が曲がり、お疲れの表情も見えました。私は「今日は大変でしたね」と声をかけると、その方は「ええ、大変でしたわ」と言われました。私は「そうだろうな、朝早くから今までお疲れになっただろうな。『大変でしたわ』と言われるのも当然だ」と思いました。しかし、そのおばあさんにとっての「大変」という言葉は私の思いとは違いました。「ええ、大変でしたわ」に続いて、「ホンコサンに寄せてい

ただくと、日頃、どれだけ自分が身勝手に生きとるかが分かります。有難いことです」と言われたのです。そして「一口大にお味噌汁にお味噌を落として下さい、味付けをお願いします。でも、一口大で人によって違うし、味付けも違うでしょう。人に合わせるのが大変です。普段は身勝手に生きとりますから。ホンコサンさんは仏さんや御開山から、『お前は身勝手に生きとるの、それでええのか?』と言われてるんです。その言葉をいただいで、自分の姿に気がついて、また生かされてもらうんです」と話されたのでした。

私にとっての一口大は、他の人にとっては、小さすぎたり、大きすぎたりしませんか? 味付けも私にとって「いい」味は、皆さんにとって「いい」味でしょうか? 気がつく私の都合に合うこと、私の都合に合う人、「いい」と思っていないでしょうか? 逆に考えれば、私の都合に合わなければ「悪く」なってしまいます。ときには、人のせいにして、理由をつけて自分を正当化する私がいまいます。先のおばあさんの話で言えば「身勝手に生きとる」ということであり、そのことにさえ気がつかないのです。それは「勝他・利養・名聞」をよりどころとした生き方です。「勝他」とは他に勝たたい、「利養」とは得をしたい、「名聞」とは名を馳せたい、ということになります。それを切るのが「帰敬式(おかみそり)」です。

式を受けたからといって、勝他・利養・名聞という三つの本鳥(髻)は切れません。凡夫たる私に一生涯付いてくるのです。帰敬式では、三つの本鳥を抱えながら生きていく身、ゆえに日々、教えを聞いていく身であるということを自覚するので。先のおばあさんのお話で言えば「お前は身勝手に生きとるの、それでええのか?」というお声をいただいで「生かされてもらう」ということでしょう。「一日のたしなみには、あさつとめに、かかさじと、たしなめ。一月のたしなみには、ちかきところ、御開山さまの御座候うところへまいるべしと、たしなむべし。一年のたしなみには、御本寺へまいるべしと、たしなむべし」(『真宗聖典 第二版』1036頁) このお言葉は『蓮如上人御一代記聞書』の一節です。以前、先輩から「二年のたしなみには、御本寺へまいるべし」とは報恩講に参ることだ」と聞かせていただいたことがありますが、その報恩講の前提は日々のたしなみがあつてということであり、その一歩が帰敬式でしょう。



＜略歴＞
大垣教区圓龍寺住職、真宗本廟教化教導。症カフェなどでの傾聴活動、上智大学グリーンケア研究所で傾聴者の養成にも関わっている。

今年度の報恩講で、皆さまはどんな言葉に出遇われますか? 足を運びましよう。親鸞聖人は「ようこそ」とお待ちかねです。

報恩講 特集ページ

高山別院 報恩講 11月1日～3日
報恩講で帰敬式を受式しましょう
～本堂での主な催し～

- ◆筑前琵琶演奏
11月2日(土) 午後2時 ※速夜法要後
田中旭泉氏・酒井旭粹氏の母娘により「平家物語」「隅田川」が演奏されます。
- ◆御伝鈔の夕べ feat. 曾爾テラワキ
11月2日(土) 午後6時30分
昨年引き続き、御伝鈔【上巻】が曾爾テラワキ氏の音楽とともに拝読されます。
- ◆帰敬式
11月3日(日・祝) 午前10時
・冥加金 13,000円(20歳以下は6,000円)
・申込締切 9月30日
※10月に事前研修がございます。
※詳細のお問合せ、お申込はお手次のお寺まで。
- ◆家族報恩講 (子ども作品展表彰式)
11月4日(月・振替休) 午前11時
・子ども作品展 (10月19日～11月4日展示)
※4日は式典終了まで
※募集要項はこちら → の QRコードからご覧ください

第43回 真宗公開講座 参加費 500円 午後2時～

10月4日(金) 於: 御坊会館 講座 報恩講のご和讃を学ぶ -信心に開く世界- 前半: 講師 四衢 亮氏 (不遠寺住職) 後半: 同朋唱和練習 三島 大遵氏 (真蓮寺住職)	11月1日(金) 於: 別院本堂 講座 念仏の道場 講師 佐賀枝 立氏 (富山教区榮明寺) ※報恩講速夜法要の後
---	---

秋季彼岸会・永代経法要

亡き方をご縁として仏法に出遇う大切な仏事です。ぜひお参りください。

9月19日(木)～25日(水)
午後1時から 勤行・法話

19日(木) 三枝 正尚氏 (随縁寺住職)	在家止住の男女 たらんともがらは
20日(金) 内記 浄氏 (往還寺住職)	ナムアミダブツ 一 帰命無量寿如来 一 いただきます
21日(土) 岩佐 幾代氏 (浄永寺坊守)	本師源空明仏教
22日(日) 三島 多聞 (別院輪番)	人と生まれたことの意味をたずねて
23日(月) 旭野 康裕氏 (永養寺住職)	親鸞さんと同朋
24日(火) 四衢 亮氏 (不遠寺住職)	真宗の信心
25日(水) 白尾 公信氏 (了心寺住職)	凡夫の救い

家族で語らう

医療の現場で

「生きることを学ぶ」を学ぶ⑦



人間であるが故の苦悩(1)
― 自己を拒絶する

私たちには生きることを根底から揺るがす出来事が次々に起こってきます。病はその代表ですが、他にも人間関係の悩み、大切な人との別れなど、私たちは希望を失ったとき、命は大事だといいたくなく、その命を喜ぶことができなくなるということがあります。老病死に代表されるような人間のもつ苦悩の内実は、ただ身体的なことだけではなく、そのように生きる喜び、生きる意味を失うということがあるといえます。若かりし積尊、一人の人間ゴータマもその苦悩に直面するのです。

しかしゴータマは、老病死を前にしても満足に生きる道があると信じて歩み出しました。それが「出家」の意味であると前回確かめました。ではその後どのような道を歩んだのでしょうか。確かな生きる道求めて歩み出した心は、苦悩を直接的に取り除こうとする心に捕らわれ、その心は「苦行」を求め、身体を痛めつけ意識は朦朧としていくのです。それは苦悩を取り除くだけではなく自己も失っていく道だといえます。

これは遠い昔の話ではなく、私たちの日頃の生活にも通じる問題がありそうです。私たちは誰しも自分の中に受けとめられない自分をもっているのではないのでしょうか。もっと自分に能力があれば、こんな病気さえしなければ、これがあれば、これがなければ...。自分なのに大事にできない自分があるのではないのでしょうか。そういう意味では、私はこのように生きていく」という「自分の思い」は、苦悩のない幸せな生活を望んでいますが、その幸せを望む心が、かえって現実の「自己」を拒絶しているといえるかもしれません。「自己」は現にここに燦然と輝いているのに、「自分の思い」はこうなるとは意味が無いと命の価値を決めてしまおう。それは苦行で自ら死の淵に追いやるゴータマの姿に通じるかもしれません。

しかしゴータマは、苦行は自己を失う道であると気づき、放棄しました。ではなぜ苦行をやめたことができたのでしょうか。実は、この苦行を放棄する場面を描く物語には、前に取り上げた「樹下観耕」の物語が再度挿入されるのです。鳥が生かすために虫を啄み、あつげなく死ぬのを見て、悲しみに暮れる少年ゴータマ。忘れさせようとする父をよそに、ゴータマは悲しみにとどまったのです。それは悲しみを取り除くのではなく、死ななければならぬ命の悲しみにとどまるとともに、無数の他者の命に依って成り立つ自己の事実をどこまでも深く見ようとする態度といえます。

だから、外に命の悲しみと尊厳を見て、そこにとどまろうとした積尊は、内にもその態度を取ったのではないのでしょうか。つまり、自分の思いの通りに苦しみを取り除くのではなく、苦しみにとどまり、自分の思いではなく自己の事実にとどまる態度です。だから、苦行を放棄した積尊は菩提樹のもとで、苦しみをどこから来るのかと思索するのです。「縁起の観察」です。鳥は空しいからと飛ばなくなることはありません。魚が絶望して泳がなくなることはないでしょう。しかしなぜ人間は、老病死を前にしたとき、命はこうして生きているのに、その命を燃やし尽くすことができずに生きられなくなるのでしょうか。積尊の苦悩の中の歩みが、その問いに共に向き合ってくださいよう思います。

別院定例法座

午後1時から

3日 三日のご坊

9月 講師 畑 亮徳氏 (願徳寺住職)

講題「浄土の慈悲」

10月 講師 上清水 信男氏 (西蓮寺衆徒)

講題「仏法聞き難し いますでに聞く」

28日 親鸞聖人で命日法座

9月 講師 北條 秀樹氏 (了泉寺住職)

講題「なぜ聞くの？」

10月 講師 春國 文春氏 (玄興寺住職)

講題「〇〇のためなら」

ひだご坊



URL: https://hidagobo.jp/sermon/

9月1日から10月31日の期間は下記の方々の法話を随時掲載してまいります。

・三枝 香氏 (随縁寺坊守)
・竹田 雅文氏 (東等寺住職)

・鍋山 雅實氏 (寶圓寺前住職)
・澤邊 恵秀氏 (誓願寺前住職)

大谷婦人会 定例法座

9月11日 (水)

10月11日 (金)

講師 三島多聞 別院輪番

いずれも午後1時から 別院御坊会館にて

秋のお彼岸に墓石展示会を開催します

納得価格でご奉仕します。ぜひご来店ください。詳細は新聞折込チラシで!

お墓の新設 リフォーム クリーニング 墓じまい 各種石工事

石のことなら ご相談・お見積り無料!!

株式会社 奥田石材 OKUDA

☎ 0577-33-9601 [本社] 高山市新宮町2498-1(新宮小学校前)

☎ 0577-32-1483 [展示場・工場] 高山市国府町上広瀬137-1

お仏壇



お洗濯・修理 お任せ ください

大切なお仏壇を キレイにして

仏壇工芸 ほりお

感謝の心で合掌しましょう TEL 0577-33-6686

お墓の新設 修繕

お墓の修繕や移転、クリーニング等 お墓の悩み 解決します。

高山墓石店 ☎ 090-7677-4883 〒506-0814 高山市滝町1362 https://www.takayamaboseki.com/

久寿玉 KUSUDAMA 自主出版 あなたの人生を一冊の本に まとめませんか? 山都印刷株式会社 高山市西之一色町二丁目九〇一八 TEL 0577-35-0350

株式会社 洞 不動産 土地・売買・中古住宅・分譲住宅・賃貸 TEL 0577-571-8227 不動産買取もお任せください!

ブックス・アイオー 月刊同朋ブックナンバー取り揃えています 真宗児童聖典も販売中 TEL 0577-341-7668

只今 決算 セール 開催中 9月23日まで 工 匠 館 桐生町2-105 0577-35-3038

保険タイム 〒506-0059 高山市下林町916-1 TEL 0577-35-1005